

# 稚アユ遡上でできず

23. 4. 20 日 水たまり泳ぎ野鳥捕食

日南・広渡川

長引く少雨で日南市の広渡川の水位が下がり、アユの稚魚が遡上(そじょう)できなくなっている。干上がった川底の一部にできている水たまりを泳いでいる状態で、野鳥に食べられるケースも相次いでいる。日南広渡川漁協は

「こんな水不足は初めて。漁にかんがりの影響が出る」と頭を抱えている。

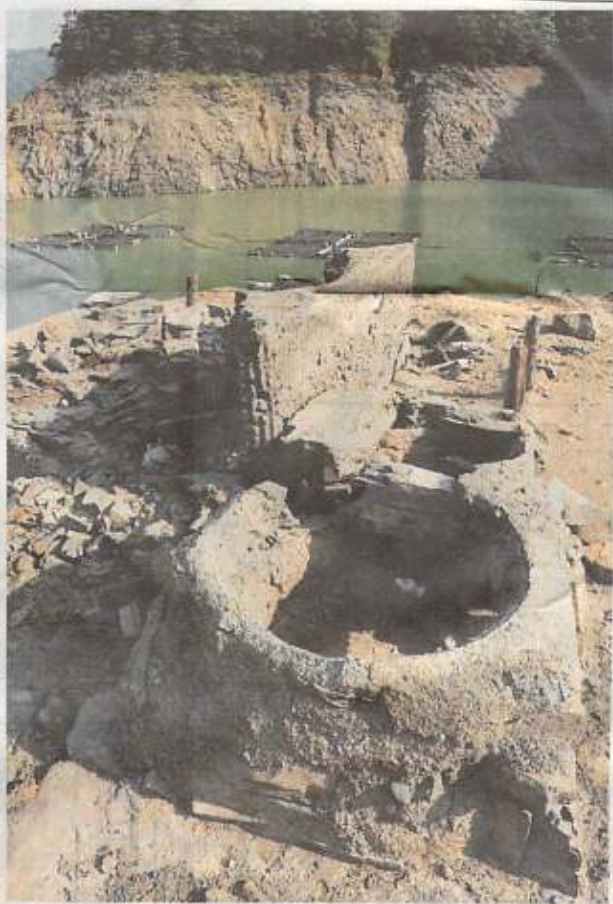
日南市や日南土木事務所、王子製紙日南工場、地元土地改良区などが19日に開いた第4回濁水対策会議で、同漁協の戸田博組合長が報告した。

それによると、広渡川ではアユの稚魚の遡上は例年、3月下旬に始まり4月中旬にピークを迎える。しかし、今年は水不足で魚道の水位が低く、さかのぼることができない。行き場を失ったアユは、下流にできた水たまりを泳いでいるが、浅いため野鳥の集団から次々と食べられている

という。こうした影響は、ノボリコ漁でもみられる。

広渡川と支流の酒谷川のアユの漁期は6〜12月で、漁獲量は年間で約千トンと推定されている。

会議では、4日に始めたダムの緊急放流で農業や工業用水には大きな影響は出ていないことが報告された。しかし、このまま放流を続けると、日南ダムは21日、広渡ダムは23日に枯渇状態になる恐れがあると指摘。毎秒の放流量は、日南ダムは0・77トンから0・75トンに減らし、広渡ダムは0・67トンから増やさないことを決めた。



水位が下がり姿を現した住居跡の「かまど」  
—18日午後 西都市・中尾

# 水没集落 濁水で出現

H23. 4. 19 日

住居や学校 広範囲に

西都・一ツ瀬ダム

長引く少雨で水位が下がっている西都市・一ツ瀬ダム周辺の東米良地区(旧東米良村)で、ダム建設時に水没した集落の住居や学校跡、旧道、棚田が姿を現し始めた。地元の人たちによると、1963(昭和38)年のダム完成以来、当時の集落跡が広範囲で確認できたのは初めてという。

ダムから北西2・5キロ地点の中尾集落では、家を建てる際のくいや、かまど、たき付け式の風呂跡が原型をとどめたまま残った住居跡が出現。旧中尾小学校跡も確認できる。近くでコイ養殖を手掛ける廣

松幸雄さん(48)は「4月から住居跡が見え始め、ダム湖が今まで見たことのない光景になった」と話す。

八重集落(西都市)でも水没前の集落の姿がうかがえる棚田、炭焼き窯跡、つり橋の門柱とみられる構造物が見つかり、越野尾集落(西米良村)でも旧道、住居跡を住民たちが確認している。

九州電力によると、ダム建設にあたり、旧東米良村と西米良村合わせて七つの集落(約360世帯)と、分校を含む五つの小中学校が水没対象区域となり、移転した。